

荒井会計通信

VOL. 4



発行日 平成 18年6月26日(月)
発行者 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 3-1-17
ハイポイントビル5階
荒井会計事務所
TEL 03-3235-5180
FAX 03-3235-5190

先日、久しぶりに同業者のセミナーに出席した。会計事務所では誰にもできる（まねが出来る）簡単な方法で飛躍的に業績を伸ばしているという広告チラシに惹かれて参加した。講師（会計事務所所長）の話では、挨拶が非常に大切であり、朝の挨拶は特に大切である。講師の事務所では所長が朝一番に出勤する。次々に出勤してくる職員（約100人）はまず事務所全体を見渡せる場所で大きな声で“おはようございます”と挨拶し、すぐ所長席、次に部長席に行き互いに視線を合わせ、同じように挨拶する。大きな声で挨拶することによりお互いに、直前まで頭の中にあった様々のことが吹き飛んで、前向きな気持ちになれるという。（西葛西：古田土公認会計士主催セミナーより）

荒井昇の辛口コラム④

【挨拶の大切さ】

最近、パソコン・携帯メールを日常生活で使うことが多くなり、直に言葉を交わすことが減ってきている。

メールは反応しようがしまいが、どちらでもいいという勝手さがあり、また感情は出さずに済むといういい加減さがある。



相手の声を聞けないと、なんとなく無味乾燥な気分が残るのは私だけではないと思う。電話は直接相手の声を聞け、当然挨拶も交わす。この時、声の調子で互いにどんな心境なのかある程度推測でき、心のこもった元気な声を聞くとこちらも元気になる。

会計通信でご紹介した『夢をかなえる勉強法』の著者：伊藤真氏は6月行われた司法試験の会場に毎日立ち、「おはようございます。頑張ってくださいね」と2時間声をかけ続ける。しかし、声をかけても無視され、無反応のことが多い。昔は返事ぐらいしてもいいのにと思ったが、今は頑張してほしいという気持ちとその相手にもてればよいと思うようになった。言葉は、息とともに声に出されることによって力を持つ、だから普段から否定的な言葉を使わないようにしている。肯定的な言葉を使い続けていると自然とうまく回るようになる。だから挨拶をしっかりとるようにしている。”と述べている。

当事務所のデータでは、この長い不況の中で電話応対が明るく礼儀正しい得意先が好業績をあげている、という結果が出ているのは決して偶然ではない。一日のスタートはまず挨拶から!!

『前号からの連載シリーズ第4回』

【魅力ある安定した平和国家を築き上げるためには】

前号までに、国家経営の破綻は10年前後のタイムラグをおいて戦争に結びつき、その結果多数の国民の命を奪ってしまうこととお話した。国家経営（政治家）の失敗の責任は非常に重い。会計通信第1号に記述したが、世界大戦に敗れた時に東京裁判が行われ東条英機首相始め7人が絞首刑に処せられた。経済の崩壊の責任は絞首刑に処せら

れるほど重い。今の政治家は国のために命をかけている人はほとんどいない。“そんな暗いことを考える前にもっと楽観的に生きようぜ。”と反論したい気持ちはよくわかる。

しかし、セミナーでもお伝えしたが、世界経済を立て直すには遅すぎる。最近、アメリカの元FRB議長ボルカー氏（日本でいえば日本銀行総裁）は“5年以内に世界は75%の確率で金融危機に陥る。”と断言した。そろそろ次の時代を模索していく時が来ている。 次号につづく

※前澤三恵の日日是好日※

【お伊勢詣】

6月18、19日、伊勢神宮にお詣りしてきました。伊勢神宮というと、日本の神様の中心、天照大御神を祀られている場所ですから、さぞかし、荘厳なイメージかと思いきや、晴れ晴れしてすがすがしいところでした。自然の中に調和して、謙虚で、明るい。



謙虚な印象を受けるというのは、日本の神社独特のものの感じがします。他の国の宗教的建造物は、もっと華やかでパワフルです。金箔がはられたり、華やかな色使いだったり、宗教画が飾られていたり。華美なものよりも、自然に調和した白木の神殿の方が美しく感じるところあたり、自分もつくづく日本人だなあと思いました。

大ベストセラーとなった「国家の品格」（藤原正彦著）の中で、あるヨーロッパの著名な学者の方が日本にいらしたときに、庭園の虫の音を聞いて、「What's that noise!」とおっしゃったというお話が紹介されています。

日本人であれば、ごく自然に楽しむ虫の音が、他の文化からいらっしゃった方からすると、「なんだ、この雑音は」と感じてしまうわけですね。

四季折々の虫の音、花の香り、山の色、私たちはだれから教わることを意識することなく、楽しむ術を身につけている。これは、誇らしいことです。そして、それを与えるてくれる日本のすばらしい自然に感謝した旅行でした。